

# 会誌編集委員会

## 女子部

Number  
39

ポスト・グローバル化の時代、医療の面でのおもてなしを・・・

上智大学 高岡詠子

グローバル化、それは医療現場でも進展しており、病院等でのコミュニケーションに苦労している多様な宗教、文化背景を持つ外国人がいます。現状では外国人患者は、友だちやプロの通訳を連れて一緒に行くなどしていますが、今後、通訳なし、あるいは英語を話せない外国人が来院したときにどう対応すればよいか、病院にとって課題となっています。どこがどう痛いとか、アレルギーがあるとか、輸血はしたくないとか、体調が悪いときに、自国でない場所で伝えるのはとても難しいことです。病院側でも、文化の違いによる入院患者とのコミュニケーションや、日本の保険制度の説明など、さまざまな壁にぶつかっているようです。

そのような背景のもと、2年前から、私の研究室では、日本の医療従事者が外国人患者とスムーズにコミュニケーションをとるのを支援するため、タブレット上で操作するシステム（多言語対応医療情報提供システム、Sophia Cross-lingual Health Assistant System : SoCHAS）を開発しています。病院へのヒアリングを重ね、病院側の意見を反映し、医師の監修を受けて作成したシステムで、来院してから病院を出るまでの間のさまざまなシーンでの対話を10カ国語で表示（英、中、ビルマ語が1言語27,000文実装済み、今後、インドネシア語、韓国語、ロシア語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語に展開）します。翻訳は、本学の留学生を中心としたボランティアで、専門性のチェックは同窓会を中

心に専門家に依頼をしています。SoCHASの翻訳は事前翻訳ですので、精度はほぼ100%に近いところが私たちの売りの1つです。辞書機能も設けていて、シーンにはないユーザが知りたい病名などの専門語や表現を多言語で提供することもできます。多言語対応ということで拡張性を考え、コンテンツをオントロジー化し、さらに機械学習などを活用して、たとえば問診回答から疑い病名や診療科を推論して家庭でのケア方法を示すなど、インテリジェントな応答を可能とするシステムを目指しています。

5月から本学の保健センターでの実証実験を開始し、SoCHAS推進のための「多言語対応医療情報提供システム推進コンソシアム」も立ち上げました。いくつかの病院での実証実験ももうすぐ始まります。コンソシアムでは、仕様検討、普及活動、実証実験、翻訳の各WGに分かれ、SoCHASの普及・向上を目指したいと考えています。SoCHASの活動にご賛同いただける方は、ぜひ、コンソシアムに参加していただければ幸いです。コンソシアム Web ページ URL は <https://sochas.jp/>、入会申込みメールアドレスは [sochas-con-reg@ml.sophia.ac.jp](mailto:sochas-con-reg@ml.sophia.ac.jp) です。「ポスト・グローバル化の時代、医療の面でのおもてなし」にあなたも一役買ってみませんか？